

ちば里山新聞

（第 81 号）
編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
☎ 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

令和8年度ちば里山センター総会が開催されました！

日時：6月18日（木） 総会 ・13：30～14：30

懇親会 ・14：30～16：00

場所：ちば中央大ホール（加瀬ビル8階）第1会議室



懇親会の様子

総会は横山誠司理事の司会にて、会員総数 98 団体のうち 79 団体（会場出席 30 団体、委任状 49 団体）の出席で開催されました。佐藤理事長の開会挨拶に続き千葉県森林課宮井主事より来賓挨拶があり、いちばら里山クラブの芦川氏を互選により議長に選出して議事に入りました。



総会の様子

議事では令和 7 年度事業報告並びに決算、令和 8 年度事業計画及び予算の審議が行われ、いずれも満場一致で承認されました。続いて欠員となってる役員 1 名の選出について、定款の規定に基づき堀口正昭氏の就任を満場一致にて承認可決された。

その後、令和 7 年度の活動支援金対象の各代表より、昨年度の活動状況について発表がありました。活動内容は地域の実態に応じて、ナラ枯れ枯死木の伐採とギャップへの植林、荒れた竹林整備、地域活動との連携など幅広い活動があるようです。

引き続き、同じ会場で懇親会を開催しました。自分たちで飲み物やつまみを持ち込む簡単な会でしたが、久しぶりの顔合わせとなった方も多く、様々な問題を抱えながらも取り組んでいる日々の活動の話題は尽きないようでした。



懇親会の様子

ちば里山センターのこれから！

総会へ足をお運びいただきました皆様、ありがとうございました。ちば里山センターも会員団体も増加しておりますので、どのように出来たのか、簡単におさらいいたします。

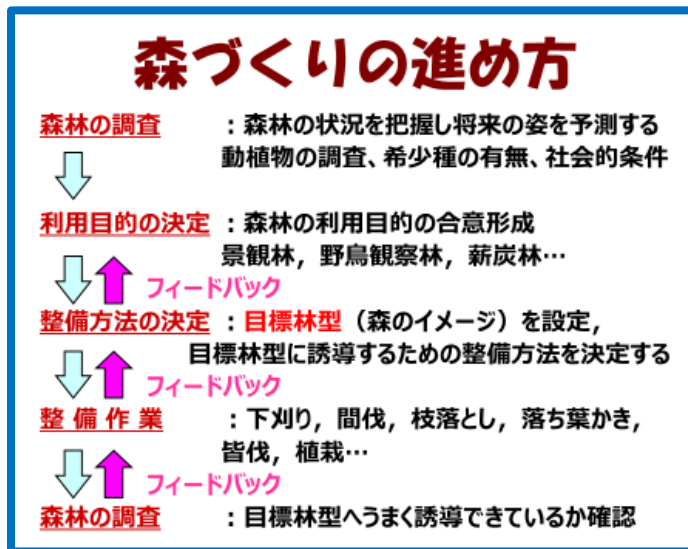
当時の県知事の呼びかけで、千葉県里山条例が出来て、広く県民に里山活動の意義と参加を促すと共に、千葉県里山バンクをはじめ、県民の要望に応えるため、県と一体となって今までできております。最近では、里山活動の広がりを受け林野庁の交付金等事業の窓口としても活動しています。

これからの里山活動は、整備も重要ですが、利活用に軸足を移していくことが重要だと考えています。CSI を初めとした周辺団体との連携により自団体では出来なかったことが出来るようになったり、里山の意義を再発見する機会にもなります。私個人の考えですが、皆伐からの森の再生、身の丈サイズの里山、回りとの調和等まだまだ未来に続く里山にしていきたいと思います。相談も承ります。

理事長 佐藤孝之

これからの森づくりのヒントを～FICの森で考える～(資料抜粋+α)

1 森づくりの進め方



まずは森のことを知る (FIC の森の履歴)

- ・ 現在は、常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林
- ・ 51 年前は、全域が落葉広葉樹林 (おそらく薪炭林)
- ・ FIC の森ができた約 20 年前はほとんどが落葉広葉樹林
- ・ この時期には、林内にクスノキなどの緑化樹が植栽されていたらしい
- ・ 51 年前と比較すると、現在は常緑樹林化が進んでいることが分かる
- ・ 落葉広葉樹林は、薪炭林として短伐期で利用されることにより維持される
- ・ 常緑の緑化樹の植栽 + 薪炭林として利用されなくなった
⇒ 常緑樹林化が進んだ

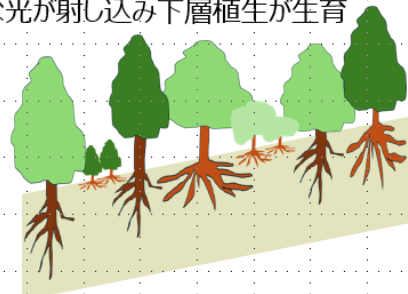
2 目標林型 (目指す森のイメージ)

(1) 森林の機能から見た目標林型

- ・ 水源涵養
- ・ 土砂災害防止
- ・ 生物多様性保全
- ・ 地球環境保全
- ・ 保健休養
- ・ 木材生産

■ 土砂災害防止／土壌保全

樹木の根が深く広く発達し土壌保持能力に優れた森
適度な光が射し込み下層植生が生育

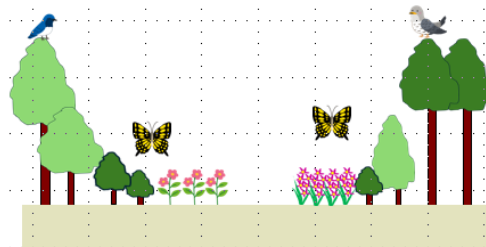


(2) 森林の利用目的から見た目標林型

- ・ 自然観察
- ・ 森林環境教育
- ・ キャンプ
- ・ しいたけ原木林・薪炭林
- ・ きのこと採り
- ・ クラフト材料

■ 自然観察

森林の階層構造が発達し、多様な動植物が観察
できる変化に富んだ森



(3) ゾーニング (利用計画図)

- ・ 自然的条件 (植生、地形、希少種などを考慮)
- ・ 社会的条件 (制限林、整備のための労力、所有者の意向などを考慮)

*常に目標林型をイメージして整備を進めることが大切です

3 ナラ枯れによる森林の変化

- ・ 千葉県では、主にマテバシイ、コナラがナラ枯れの被害を受けた
- ・ 枯死から5年程度経過すると、根が腐朽して倒伏し始める
- ・ シラカシは大径木で枯死するものがあった（一部に現在も衰弱している個体あり）
- ・ 被害を受けた森林ではギャップ（樹冠の疎開）ができて林床が明るくなり、
いろいろな植物（草本、木本）が侵入している ⇒ 種の多様性、生態系の多様性

4 現在の森が抱える問題

- ・ 気象害（台風の大型化、豪雨）
- ・ 病虫害（非赤枯性溝腐、ナラ枯れ、外来カミキリによる被害）
- ・ 高木林化、大径木化により管理（伐採）が困難
- ・ 危険木（根元の腐朽、枯れ枝など）の増加
- ・ 整備の労力（資金）不足

⇒ 人が立ち入れない危険な森が増加



気象害を受けた森林

5 これからどんな森を目指すか

- ・ ナラ枯れ被害や気象害を受けた森をどうするか
- ・ すべての森を「大きな木」にする必要はない
- ・ 利用目的に合わせた管理できる目標林型を考える
- ・ 「低木林（Coppice）」という選択肢



短伐期林

*短伐期低木林施業

- ・ 10年～15年程度の短いサイクルで伐採を繰り返す
- ・ 樹高を容易に管理できる範囲（10m程度）に抑える
- ・ 伐採後は萌芽更新を活用して森を再生する（植栽不要、下刈りは必要）

メリット

- ◆ 樹高が低いため、倒木や落枝による致命的な事故のリスクが低減
- ◆ 遷移の初期段階を維持することで、里山特有の生態系を保全
- ◆ 生産材は、きのこ原木、薪炭、クラフト材料などに利用
- ◆ 「切る、使う、育てる」のサイクルを短期間（10年単位）で体感できる

ナラ枯れや気象害でできたギャップ、木材生産等のために皆伐した場所を活用し、
管理しやすく、安全で利用しやすい短伐期低木林を目指してみてもはいかがでしょうか

森づくりのキーワード

- ・ 生物多様性保全 : 多様な生物とそのすみかを守る
- ・ 二酸化炭素吸収 : 森林による温室効果ガスの吸収固定
- ・ 資源の循環利用 : 木材、落ち葉などを無駄なく活用する
- ・ 多面的機能 : 森林が持つ多面的機能を有効活用する
- ・ 遺伝子かく乱 : 地域の遺伝子を保全する

5月20日君津市鹿野山で実施されたCSI事業「これからの森づくりのヒントをFICの森で考える」の
抜粋資料を福島講師（緑化推進アドバイザー）の了解を得て、掲載させていただきました。

里山じまん ②⑧

特定非営利活動法人 しろい環境塾

～農村の里山景観を守り続けて～

四半世紀前の2000年に発足した「しろい環境塾」は、下手賀沼南側の白井市の農村地域が活動の舞台です。里地里山の林や田畑を保全するために、農家の高齢化や後継難で進む耕作放棄を食い止めねばと考えました。農家から無償で借り受けて、里山保全部や農業支援部野菜チーム・水田チームなどが取り組んできました。隣接する千葉ニュータウンの都市住民の会員が多く、週3回の作業日に集まるのは毎回25人ほどです。近年ベテラン会員の病気や死亡が続いて里山メンバーは6人に減少し、活動の見直しを迫られています。



20260606 白井市の森でナラ枯れの伐倒

白井市から管理を委託される林は、「運動公園の森」など4区域で年々拡大し9ヘクタールへ。この受託料が年200万円にまで増加していて、旧平塚分校の事務所でパート雇用や電気代、農業資材まで賄えています。里山景観を守るために、地元農家の依頼を受けて竹林などの間伐や休耕地の草刈りを有料で実施。イオン環境財団の助成金も継続して受け取ることができています。



20260617 炭窯改修で大谷石を降ろす

近年はナラ枯れによりコナラが次々立ち枯れし、散策する市民のために果てしない伐採・玉切り作業が続きます。大木の安全な伐倒用の

チルホールや草刈りのハンマーモアのような機材は欠かせません。新たな会員にはチェーンソー資格の受講費を援助することも行っています。20年余り続ける炭焼きの窯は5代目ですが、ドラム缶から始め大谷石で自前の築造。林の整備で伐採したシラカシやクヌギ、孟宗竹を活用して里山保全の一助にしています。地元農家の塀の大谷石で造った炭窯なので、4年経つと天板にひびが入って落ちる危険があり、今度は新品で改修中です。東京の鍛冶グループへの販売や、隣の延命寺の初詣など地元の催しでさばいています。

NPO 法人しろい環境塾 南波 悠二郎

~~~~~ つれづれごと ~~~~~  
長い梅雨空がやっと明け◆蒸し暑く長い夏に突入して◆うんざりしているのは自分だけでしょうか◆もうこの間のホテル観察会も過ぎて◆日本の夏も風情があって◆まんざらでも無いような◆ともかく暑い夏は乗り切るしかないと思う。(Y.A)

## 里山の風にゆられて ③④



## ヒョウタンボク&lt;瓢箪木&gt;スイカズラ科

山地に生える落葉低木。高さ1~2m。葉は対生、楕円形で長さ2~5cm、両面に軟毛が多い。花期は4~6月。葉腋に2個ずつ花をつける。花は1.5cmほどで、最初白色だが次第に黄色に変わる。果実は直径8mmほどで、6~7月に真っ赤に熟し、おいしそうに見えますが有毒です。

写真・文 赤松義雄 R8.6.3 ちば里山センター

## 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ケ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>